

2024年春闘回答 過去最高となる!!

高い水準の賃上げを継続

7月4日現在、68の交渉単位の内、63単組が賃上げに取り組み、63単組で妥結、1単組で決定に至っている。(以降カッコ内は昨年最終との比較)

妥結の内訳として49単組(±0単組)では、賃金構造維持分に加えて、改善分の回答があった。なお、昨年度は要求断念が3単組あったが、今年度は全単組・支部で何らかの取り組みがあった。

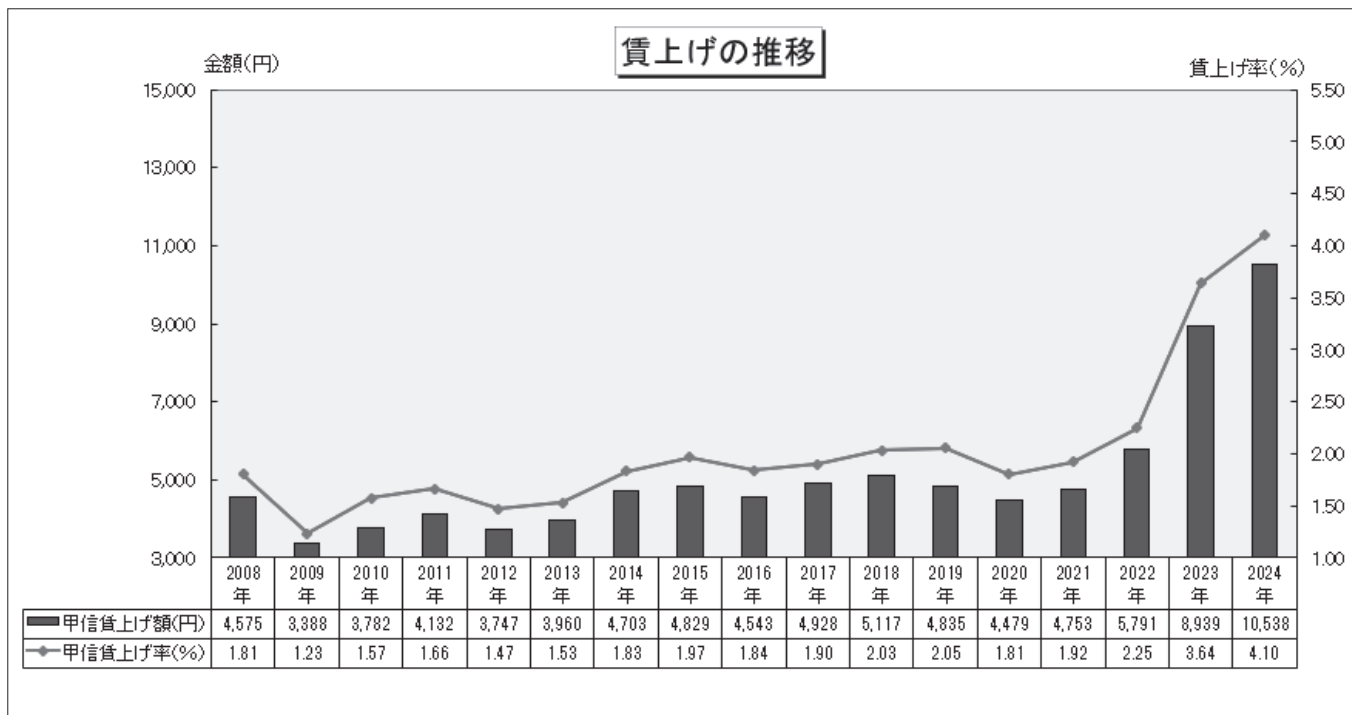
回答・妥結の平均額は10,538円(+1,599円)であり、改善分は7,279円(+1,835円)と、昨年最終実績を大きく上回り、過去最高となった。

労組主導の取り組み 検証必要

結果として、2023年を起点とした高い水準の賃上げを継続出来た。今後も賃上げ水準の歴史的な転換に向けて、高い水準の賃上げを確実に継続していく必要がある。一方で、労働組合が主導の下、組合員の声を吸い上げる徹底した職場討議を行い要求することが出来たか否かを検証した上で次年度以降に臨む必要がある。

また夏季一時金では、妥結・決定に至っているのは35単組である。平均額は昨年を大きく上回っているが、今後の状況を注視する必要がある。

交渉単位数 68単組	賃上げ			一時金		
	額/円	率/%	妥結単組数	妥結月数	平均額/円	妥結単組数
実績	10,538	4.10	64	2.20	703,625	35
昨年最終	8,939	3.64		1.85	598,209	
比較	1,599	0.46		0.35	105,416	



****おしらせ****
2024年・労働条件調査・賃金全数調査を展開中です。全単組・支部のご協力をお願いします!

JAM甲信は、4月6日（土）に岡谷市のライフプラザマリオを主会場に、「男女参画セミナー」を開催した。セミナーには女性38名（女性参加者比率40%）を含む31単組89名に講師・書記局の6名が加わり、計95名が参加した。

今回は、(株)ツチの取締役専務である荻野邦子氏に「超・人材不足時代を生き残る鍵は、女性リーダーにあり」と題し講演を頂いた。

荻野氏は、女性が管理職になりたがらない理由として男性由来のリーダー像と比較している点を挙

げ、リーダーのタイプは多様化していることを説明し、「自信がない」と自覚している女性の方が、リーダーとして活躍できる場面が増えてきているとし、女性リーダーの必要性を説いた。

開催後のアンケートによれば、「自分の中にあった考えや常識などを、改めて見つめ直すきっかけになった」「子育てと仕事を両立するためには大きな改革が必要で、労使での意見交換が重要だと感じた」などの声が寄せられ、参加者にとって有意義なセミナーとなった。



女性リーダーの必要性を説く荻野講師



女性の働き方について問う参加者

JAM甲信は、国会見学及び友好国会議員との懇談会を、4月18日（木）に参議院議員会館にて開催した。懇談会は、JAM甲信の役職員30名、政治連盟会員19名、計49名の参加に加え、準組織内国会議員の村田享子参議院議員、山梨県の中島克仁衆議院議員、長野県の篠原孝衆議院議員、下条みつ衆議院議員、神津たけし衆議院議員、羽田次郎参議院議員も参加を頂いた。

冒頭に、村田享子参議院議員ならびに山梨・長野の友好国会議員の皆さんからそれぞれご挨拶と活動報告を頂いた後に意見交換に移った。

意見交換では、政治連盟に加入している若年層の参加者より、「経済的に実効力のある子育て支援策と少子化対策を講じてほしい」「高等教育の無償化について、年収枠の設定を緩和するなど、制度の見直しについて検討を頂きたい」「ガソリン価格のトリガー条項や防衛費などについて、国会での議論がないがしろにされている。もっと国会で議論を尽く

すべき」「女性が働きやすい社会のために、様々な取り組みを進めてほしい」など、多岐に渡る現場の声や多くの意見が届けられた。各議員より返答を頂く形で進めたが、予定していた時間では足りないほどの活発な意見交換となった。



村田享子参議院議員の活動報告に耳を傾ける参加者

JAM甲信は、男女共同参画委員会が主催する「ジェンダーフリーミーティング」を、これまでの「女性組合員の集い」から名称と開催形式を変更し、2024年5月から7月にかけて、各地区で開催した。

男女共に働きやすい社会の実現に向けては男性の意見も聞く必要があることなどから、これまで参加対象者を女性限定であったものを、男性も交えた開催とした。

最初に、「職場のハラスメントをなくそう！」と題して基調提起を行なった。講師は男女共同参画委員会の池田委員長をはじめ、小尾・川手・加藤副委員長など、男女共同参画委員会のメンバーが務めた。基調提起では、「職場におけるハラスメントは主に5種類ある」「職場におけるハラスメントの実態について、セクハラは減ったがパワハラは横ばいである」「ハラスメント撲滅に向けて、アンコンシャスバイアスを意識し打破する必要がある」と説かれた。

その後の意見交換では、「学習の機会を多く設け

ることでハラスメントも無くなるのでは」といった意見が出された。

開催後のアンケートからは、「ハラスメントについて、理解が深まり良かった」「皆さんの意見や思い、男性・女性の捉え方の違いなどを知ることができて良かった」「アンケートを行い、自単組の状況を把握してみたい」などの声が寄せられた。



ハラスメントについて意見交換する参加者（諏訪）

JAM甲信・青年女性協議会は、2024年4月から6月の間で、各地区協の青年女性協議会が主催する政策制度セミナー&イベントを全地区で対面開催した。

前半のセミナーでは小林組織部長を講師とし、「政治を身近に感じよう」と題して、基調提起を行なった。提起では賃上げや価格転嫁の取り組み、少子高齢化や年金制度などを例に挙げ、政治が私たちの生活に密接に関係していることを説いた。

提起後には、「政治を身近に感じるには?」「こういう社会にしたい。どんな政策に取り組んだら良いか?」の2つのテーマについて、グループに分かれて意見交換を行なった。最初のテーマでは、現状の物価高騰などのニュースを身近な問題としてとらえるようにしていくこと、また、二つ目のテーマでは、普通に仕事をして普通に生活できる社会にするためには賃上げの政策について声を上げると共に、労働組合として賃上げの取り組みが今後、更に重要にな

るということを参加者全体で共有した。

参加者からは「普段政治の話をしないが、グループワークであるべき社会の姿を皆で考え、共有することが出来て良かった」「政策実現活動が将来を良くしていくことと理解できたので、積極的に取り組んでいきたい」などの意見や感想があった。



「政治を身近に感じるには?」を報告する参加者（佐久）

JAM甲信は、6月14日～15日の日程で参加者38名を集め、JAM甲信・第16回安全衛生交流集会を開催した。なお、対面・企業訪問による一泊二日の開催は5年振りとなった。

初日、第1部の安全パトロール（工場見学）は、株式会社都筑製作所のご協力により、上田市にある丸子工場にて実施させてもらった。安全パトロールでは安全衛生の視点で良かった点、気になった点



安全パトロールで気付いた点は？

を、メモを取りながら見て回った。

第2部は、会場を上田駅前の「上田東急REIホテル」に移し、6グループに分かれ安全パトロールの結果をまとめた。まとめでは「全社で安全衛生の取り組み意識が高い」「床面の油垂れが少なかった」「5Sが徹底されている」など、安全第一に考えられた作業環境を評価する声が多かった。

翌日、第3部の研修としては、富田労働安全衛生研究所代表の富田勉氏を講師に招き、『『重大災害の芽』となるヒューマンエラーの防止対策』と題して講演を頂いた。

富田氏は、「原因を究明し対策を立てることが重要である」「安全管理は監督者が要であり、管理・監督で労働災害を減らせる」などと説いた。

参加者からは「自社以外の工場を見る機会はほぼ無く大変参考になった」「講演でヒューマンエラーは無くならないと分かった。やるべきことを実行していきたい」などの感想があった。

JAM甲信は、ステップアップセミナーを6月29日から30日に富士見町のジュネス八ヶ岳で開催し、青年女性協常任幹事・事務局を含めて29単組・支部から79名が参加した。

初日は、11チームの編成でスポーツ交流として「ふらばーるバレー」を行なった。チームで声を出し合い、不規則に弾むボールを追いかけた。続いて夕食交流では恒例のBBQを楽しみながら、更に交流を深めた。



みんなで掛け声「ナイス、サーブ!!」



協力して高いタワーを立てよう

2日目の体験型研修は限られた条件下で長さを競う「新聞破りゲーム」と、新聞紙を使って高いタワーを立てる「新聞紙タワー」を行なった。タワー作成では色々なアイデアが出され、2mを超えるタワーを立てたチームも現れた。参加者からは「楽しく学べた」「他単組の参加者と楽しく交流も深められ良かった」などの感想があった。